

https://www.kkaneko.jp/de/rd/index.html

金子邦彦



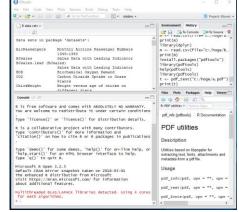


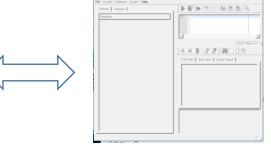
#### Rシステムでのデータの保存











リレーショナルデータベース

管理システム

作業空間 (ワークスペース)

の保存用ファイル

Rシステム



R データファイル(拡張子: .Rd)

への**ワークスペースのセーブと** 

ロード

※1ファイルに, 複数オブジェクト保存可能 テーブルオブジェクトを CSV ファイルに

エクスポート

※1ファイル=1オブジェクト

#### なぜデータベースシステム



- 巨大(メモリに入りきらないくらい)なデータを、 軽快に扱いたい
- データの共有、データへの並行アクセスを簡単に 行えるようにしたい

#### リレーショナルデータベースでは



リレーショナル・データベースには、<u>データ</u> <u>の種類ごとに分かれた</u>、たくさんのテーブル が格納される

#### テーブル名: 商品

ID	商品	単価
1	みかん	50
2	りんご	100



ID	名前
1	Α
2	В

# リレーショナルデータベースのテーブルの例外、

◇ テーブル名: 商品

データ本体

ID	商品	単価	
1	みかん	50	<b>トレコード</b>
2	りんご	100	<b> </b> レコード

◇ テーブル名: 会員

データ本体

D	名前		
1		Α	<b>  レコード</b>
2		В	レコード

#### リレーショナルデータベース



- 1. 種類の違うデータは、別のテーブル に分ける
- 2. レコードが、データの基本単位 会員1人 = 1レコード ビデオ1本 = 1レコード
- データを識別したいときは 主キーを使う。
   どの会員がどのビデオを借りているかの記録にも主キーを使う

◆ テーブル名:会員

会員番号	氏名
1	AA
2	CC
3	BB
4	DD

**♦** テーブル名:**ビデオ** 

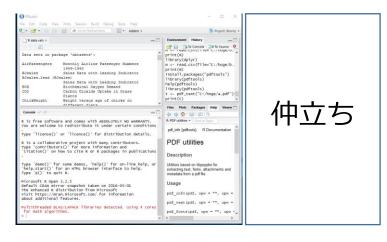
I D	名前	貸出者
1	ハリーポッター	1
2	ハリーポッター	3
3	ドラえもん	3



## 11-2. Rシステムで リレーショナルデータベース を扱う

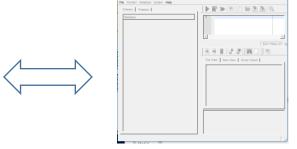
#### RSQLite パッケージ





Rシステム

RSQLite パッケージ



リレーショナルデータベース 管理システム SQLite バージョン 3

#### RSQLite パッケージの機能



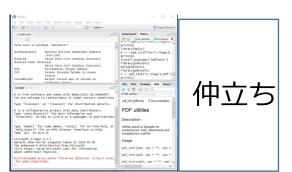
• SQLite3 にアクセスして、SQLite3 のほぼ全機能を扱うことができる

テーブル定義

テーブル操作(行の挿入、削除、値の変更)

SQL問い合わせ

R のテーブルオブジェクトを、SQLite3 の「テーブル」と相互に変換することが簡単にできる機能も







リレーショナルデー タベース 管理システム SQLite バージョン

### R のテーブルオブジェクトと、 SQLite3 の「テーブル」



name	price
apple	100
orange	50
banana	230

扱いたいデータ

R の**テーブルオブジェクト** (コンストラクタと確認表示)

```
∃create table x (
   name text,
   price integer );

insert into x values("apple", 100);
insert into x values("orange", 50);
insert into x values("banana", 230);
```

		nrica
	name	price
1	apple	100
2	orange	50
3	banana	230

テーブル定義と テーブル牛成

SQLite3 のテーブル

確認表示

#### RSQLite パッケージのインストール



install.packages("RSQLite")

※他のリレーショナルデータベース管理システム MySQL, Oracle, PostgreSQL, SQLServer などを使いたいときは, それぞれ用のパッケージを探して、インストールできる

#### R のテーブルオブジェクトを、SQLite に格納 (そのとき、SQLite のテーブルに自動変換)



	name	price
1	apple	100
2	orange	50
3	banana	230

R のテーブルオブジェクト (オブジェクト名は **x**) SQLite3 のテーブル (テーブル名は xx)

```
library(dplyr)
```

x <- data\_frame( name=c("apple", "orange", "banana"), price=c(100, 50, 230))

print(x)

library(RSQLite)

エラーメッセージが 出ないことを確認

dbwriteTable(conn, "xx", data.frame(x))

conn = dbConnect( dbDriver("SQLite"), dbname="hoge.db")

Source: local data frame [3 x 2]

(chr) (dbl) Lapple 100

dbDisconnect(conn)

conn = dbConnect( dbDriver("SQLite"), dbname="hoge.db")
dbConnect(conn)

dbWriteTable(conn, "xx", data.frame(x))

dbDisconnect(conn)

## R のテーブルオブジェクトを、SQLite に格物( (そのとき、SQLite のテーブルに自動変換)

• Rのテーブルオブジェクト = SQLite のテーブ ル

R のテーブルオブジェクト (オブジェクト名は x)



	name	price
1	apple	100
2	orange	50
3	banana	230
3		

R のテーブルオブジェクト (テーブル名は xx)

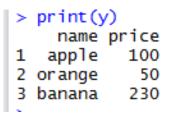
## わざとオブジェクトxを消してください



```
> remove(x)
> |
```

あとで、SQLite から読み込みたいから

## R のテーブルオブジェクトを、SQLite に格納し、 (そのとき、SQLite のテーブルに自動変換)





name	price
1 apple	100
2 orange	50
3 banana	230

R のテーブルオブジェクト (オブジェクト名は **y**) SQLite3 のテーブル (テーブル名は xx)

```
library(RSQLite)
conn = dbConnect( dbDriver("SQLite"),
dbConnect(conn)
y <- dbReadTable(conn, "xx")
print(y)
dbDisconnect(conn)</pre>
```

```
> library(RSQLite)
> conn = dbConnect( dbDriver("SQLite"), dbname="hoge.db")
> dbConnect(conn)
<SQLiteConnection>
> y <- dbReadTable(conn, "xx")
> print(y)
    name price
1 apple 100
2 orange 50
3 banana 230
> dbDisconnect(conn)
[1] TRUE
> > |
```

エラーメッセージが 出ないことを確認

#### SQL の例



```
> library(RSQLite)
> conn = dbConnect( dbDriver("SQLite"), dbname="hoge.db")
> r1 <- dbGetQuery(conn, "select * from xx;")
> dbConnect(conn)
<SQLiteConnection>
> print(r1)
    name price
1 apple 100
2 orange 50
3 banana 230
```



name	price
1 apple	100
2 orange	50
3 banana	230

SQLite3 のテーブル (テーブル名は xx)

```
library(RSQLite)
```

conn = dbConnect( dbDriver("SQLite"), dbname="hoge.db")

dbConnect(conn)

r1 <- dbGetQuery(conn, "select name from xx;")

print(r1)

dbDisconnect(conn)

```
> library(RsQLite)
> conn = dbConnect( dbDriver("SQLite"), dbname="hoge.db")
> dbConnect(conn)
<SQLiteConnection>
> r1 <- dbGetQuery(conn, "select name from xx;")
> print(r1)
    name
1 apple
2 orange
3 banana
> dbDisconnect(conn)
[1] TRUE
> |
```

エラーメッセージが 出ないことを確認